

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
分担研究報告書

福島県における感染症関連神経疾患の発生動向調査とその病原体検索

研究分担者 細矢 光亮 福島県立医科大学小児科 教授

研究要旨

福島県内における急性弛緩性麻痺および急性脳炎・脳症の小児入院患者の全数を把握するため、平成 26 年 1 月より、小児入院施設のある県内全ての医療機関と連携した前方視的発生動向調査を実施している。それによると、平成 29 年 1 月～12 月の 1 年間に、福島県における急性弛緩性麻痺の発生はなかった。急性脳炎・脳症は、同期間に 9 例（HHV6：3 例、インフルエンザ A：2 例、アデノウイルス：1 例、ロタウイルス：1 例、不明 2 例）の発生があった。福島県において、エンテロウイルスの関与が証明された急性弛緩性麻痺あるいは急性脳炎・脳症の発生はなかった。

A．研究目的

福島県全域で発生した急性弛緩性麻痺および急性脳炎・脳症の全例を把握し、可能な限り病原体を明らかにする。

B．研究方法

福島県内における急性弛緩性麻痺および急性脳炎・脳症の小児入院患者の全数を前方視的に把握するため、小児入院施設のある県内全ての医療機関と連携し、毎週該当疾患の有無と、発生があった場合はその症例を福島県立医科大学小児科に報告してもらい、これを集計する。

（倫理面への配慮）

医療機関からの報告は、性別年齢別の発症者数のみであるので、個人情報には完全に保護されている。

C．研究結果

急性弛緩性麻痺は、平成 26 年 1 月～29 年 12 月の 4 年間に福島県での発生はなかった。

急性脳炎・脳症は、平成 26 年に 12 例（HHV6：3 例、突発性発疹関連：1 例、インフルエンザ A：1 例、インフルエンザ B：1 例、原因不明：6 例）、平成 27 年に 12 例（HHV6：3 例、突発性発疹関連：1 例、ムン

プス：1 例、原因不明：7 例）、平成 28 年に 8 例（HHV6：1 例、インフルエンザ A：3 例（内 1 例死亡）、原因不明：4 例）、平成 29 年に 9 例（HHV6：3 例、インフルエンザ A：2 例、アデノウイルス：1 例、ロタウイルス：1 例、不明 2 例）の発生があった。

福島県において、平成 26 年 1 月～29 年 12 月の 4 年間にエンテロウイルスの関与が証明された急性弛緩性麻痺あるいは急性脳炎・脳症の発生はなかった。

D．考察

福島県内の小児入院施設のある全ての医療機関と連携した前方視的発生動向調査システムが機能し、県内で発生した急性弛緩性麻痺および急性脳炎・脳症の全数が把握されるようになった。これにより、エンテロウイルス D68 型や A71 型の流行に伴う急性弛緩性脊髄炎や脳幹脳炎の発生を、リアルタイムに感知できるものと期待される。

E．結論

福島県内で発生した急性弛緩性麻痺および急性脳炎・脳症の全数をリアルタイムに把握する前方視的発生動向調査システムが確立した。

F . 研究発表

1. 論文発表
無し

2. 学会発表
無し

G . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
無し

2. 実用新案登録
無し

3. その他
無し